

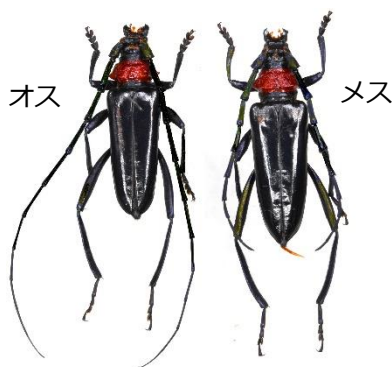
特定外来生物クビアカツヤカミキリについて

◆クビアカツヤカミキリとは

クビアカツヤカミキリは、幼虫がサクラ・モモ・ウメなどの樹木の内部を食害して弱らせ、枯らせてしまう特定外来生物です。

現在、全国の13都府県で被害が確認されており、繁殖力が強く、一度定着してしまうと根絶が困難で、被害が広がっています。

茨城県では2019年に古河市のハナモモで初めて被害が確認され、五霞町、つくば市でも被害が確認されています。



◆クビアカツヤカミキリ成虫の特徴

体長は25～40mmで、体は黒く光沢があり、前胸部(いわゆるクビ)は鮮やかな赤色をしています。国内に似たカミキリはいません。

5月中旬～8月頃に羽化し、1か月ほどの寿命の間に、樹皮の割れ目などに卵を多数産卵します。

被害を受けた樹木

被害を受けたモモの木を伐採したところ。食害孔がたくさん見られます。食害が進むと樹木は弱って枯れてしまいます。



◆クビアカツヤカミキリを見つけるには

成虫：

5月中旬～8月頃に、サクラ、モモ、ウメなど被害を受けるおそれのある樹木を見回ってよく探します。

幼虫：

幼虫は主に初夏から秋にかけて、樹木に開けた排出口からフンと木くずの混ざった「フラス」といわれる排出物を大量に排出します。樹木の内部に幼虫がいるかどうかは、フラスの発生で判断します。



◆クビアカツヤカミキリの駆除について

成虫：

見つけたら逃がさないように素早く捕まえて、その場で踏みつぶすなどしてください。(生きたまま持ち運ぶことは法律で禁止されています。)

幼虫：

幼虫は、フラスの排出口から殺虫剤を注入するなどして駆除します。また、羽化して飛び出さないよう、木にはネットを掛けます。加害が進んだ場合は、殺虫剤が効きづらくなり、また倒木や落枝などの危険もあるため、伐採し、焼却するか細かく破碎します。

※ 早めの発見と駆除が重要です。侵入から時間が経つと、駆除は急激に困難になります。

※ 通常1回の駆除で完全にいなくなることはありません。

継続して見回りを行い丁寧に駆除することが大事です。

特定外来生物ツヤハダゴマダラカミキリについて

◆ツヤハダゴマダラカミキリ

ツヤハダゴマダラカミキリは森林のほか、農地、公園、街路樹、学校等の樹木に深刻な影響が出ることが懸念されているカミキリムシです。

成虫

体長は20~35mmで、体色は全体に光沢のある黒色で鞘翅に約20個の白斑を有します。

触角には明瞭な白色の帯があり、雄は体長の2.5倍、雌では1.3倍と長いです。成虫は5月~10月に出現します。

茨城県では11市で確認されていますが他地域でも生息している恐れが強いです。



◆被害を受けるおそれのある樹木

セイヨウトチノキ、アキニレ、リンゴ属、サクラ属、ナシ属、バラ属、ネムノキ、ハリエンジュ、トネリコ、ユリノキやヤナギ属、カツラ属など多種に及んでいます。中国では250万ha(40%)のポプラが被害を受けたそうです。

茨城県では、アキニレ、セイヨウトチノキ、カツラなどの街路樹や公園木が被害を受けており、河川敷のヤナギ類野生木などにも発生が報告されています。



◆ツヤハダゴマダラカミキリの見つけ方

○発生木の調査（時期：周年）

木幹を観察し、成虫の脱出孔又は産卵痕（直径10~20mm）、幼虫が排出するフラス（食べた木くずと糞が混ざったもの）の有無を確認。

木の上部に見られることが多い。

●成虫の調査（時期：5~10月ごろ）

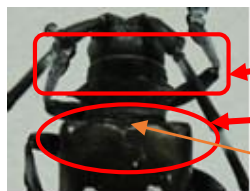
被害発生木を中心に目視で観察。在来種ゴマダラカミキリとの区別に注意してください。



成虫の脱出孔

産卵痕

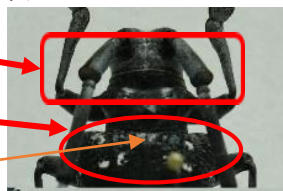
ゴマダラカミキリとの見分け方



『前胸背』

『上翅基部』

小楯板



ツヤハダゴマダラカミキリ		ゴマダラカミキリ
白紋なし	『前胸背』	中央に2つの白紋
顆粒状突起なし 白紋なし	『上翅基部』	顆粒状突起あり 白紋あり
白色軟毛に覆われない	小楯板	白色軟毛に覆われる

◆ツヤハダゴマダラカミキリの駆除について

○成虫を見つけたら逃がさないように素早く捕まえて、踏みつぶすなどしてください。（生きたまま持ち運ぶことは法律で禁止されています。）

○伐倒駆除 … ■成虫が羽化脱出する前の4月中に完了させる。

■伐採した木はチップ化、焼却処分する。

○薬剤防除 … 農薬の使用に当たっては、必ず登録内容を確認してください。